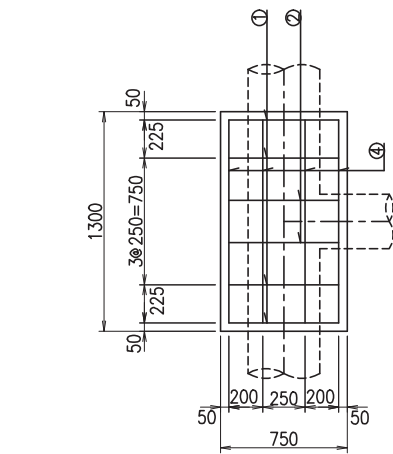
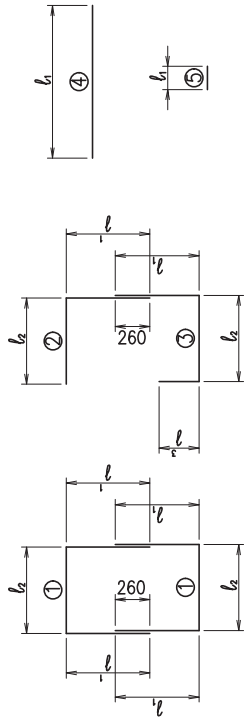


V 異形管（T字管）防護標準図集

平面図

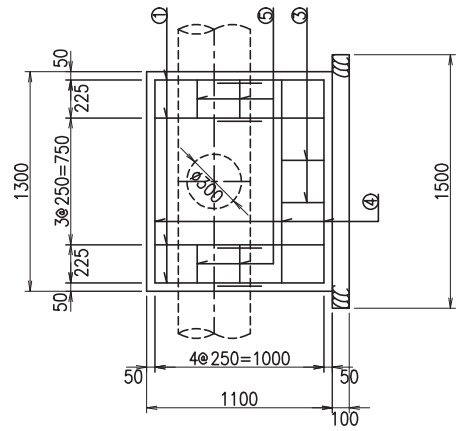


配筋加工図

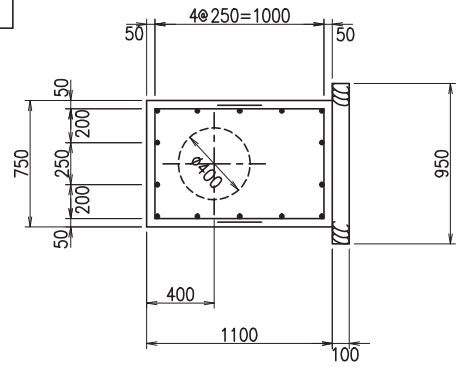


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	630	650		1,910	8	15,280
②	D13	630	650		1,280	2	2,560
③	D13	630	650	250	1,530	2	3,060
④	D13	1200			1,200	12	14,400
⑤	D13	225			225	4	900
ΣL= 36,200 mm					ΣW=	36 kg	
					コンクリート体積 (m ³)	0.86	
					砕石面積 (m ²)	1.43	
					型枠面積 (m ²)	4.13	

側面図



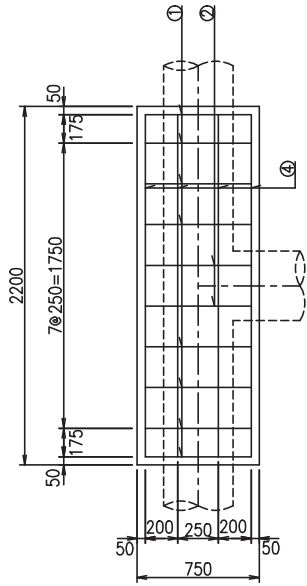
断面図



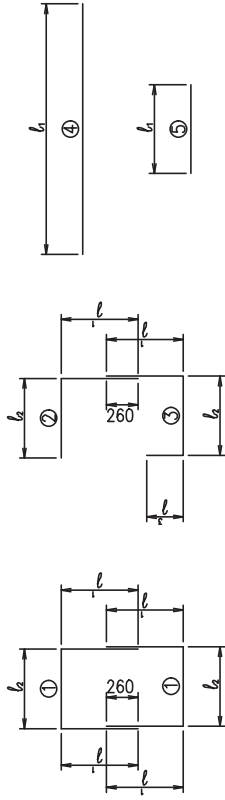
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に転圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な換腐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講ずること。

T字管保護コンクリート
φ400 × φ300
(単位mm)

平面図

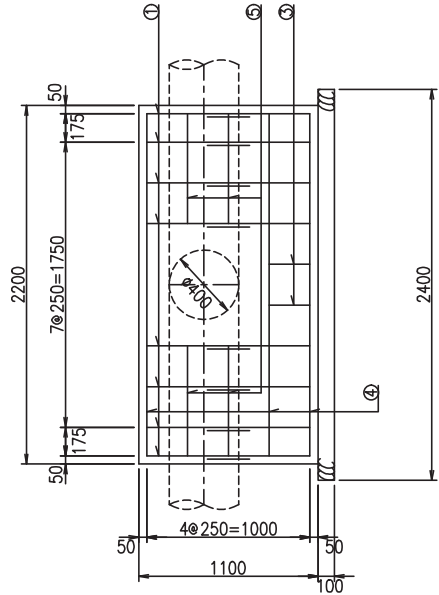


配筋加工図

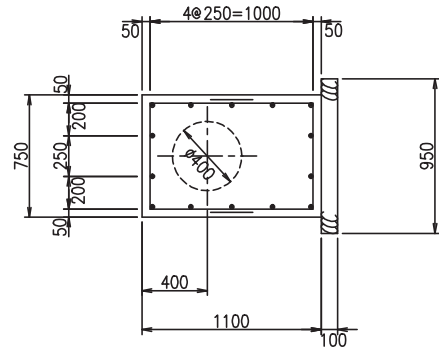


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	630	650		1,910	16	30,560
②	D13	630	650		1,280	2	2,560
③	D13	630	650	200	1,480	2	2,960
④	D13	2,100			2,100	12	25,200
⑤	D13	675			675	4	2,700
ΣL= 63,980 mm					ΣW=	64 kg	
コンクリート体積 (m ³)					1.46		
砕石体積 (m ³)					2.28		
型枠面積 (m ²)					6.04		

側面図



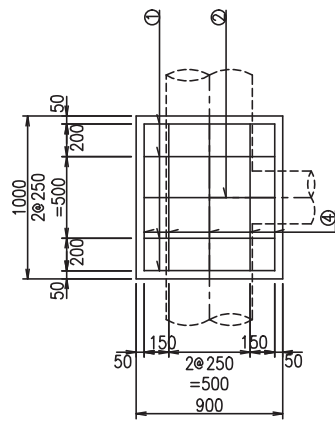
断面図



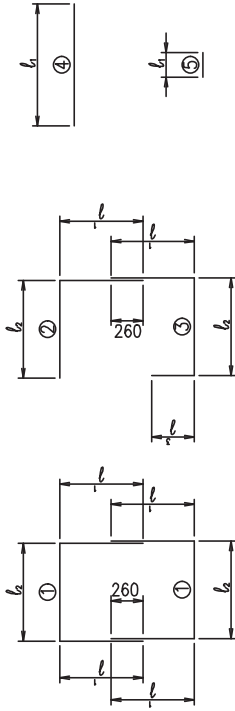
(注) 1. 砕石は振き均し後、十分に締圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講ずること。

T字管保護コンクリート
φ400 × φ400
(単位:mm)

平面図

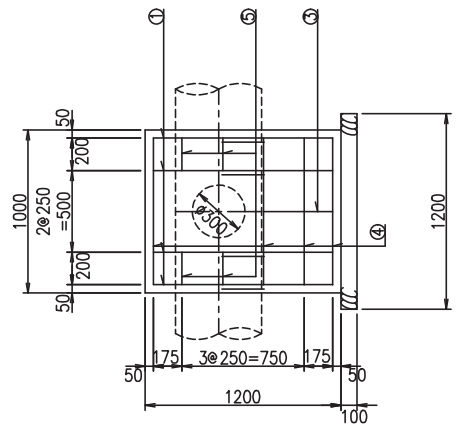


配筋加工図

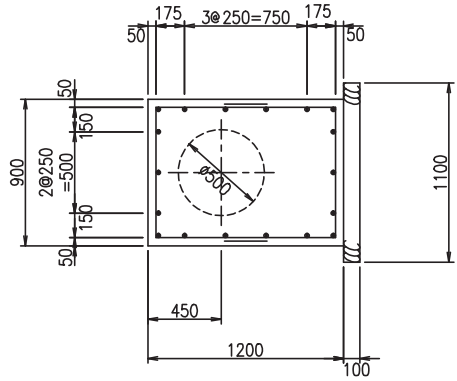


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	680	800		2,160	8	17,280
②	D13	680	800		1,480	1	1,480
③	D13	680	800	425	1,905	1	1,905
④	D13	900			900	16	14,400
⑤	D13	200			200	4	800
		ΣL= 35,865 mm			ΣW=	36 kg	
		コンクリート体積 (m ³)				0.84	
		砕石面積 (m ²)				1.32	
		型枠面積 (m ²)				4.04	

側面図



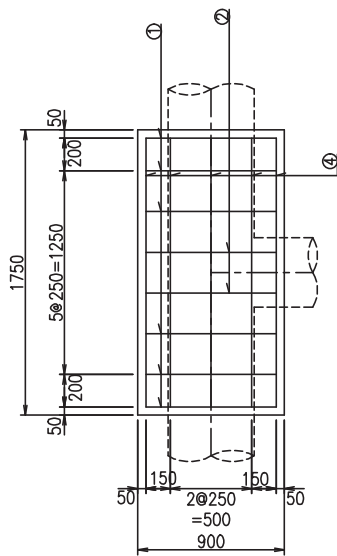
断面図



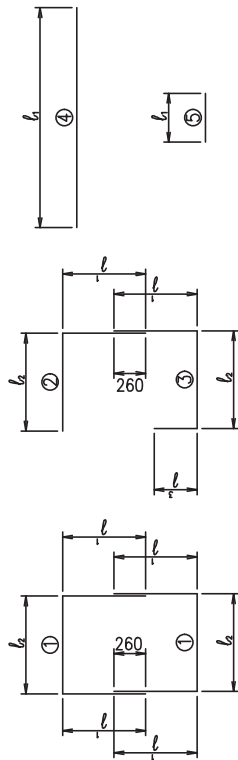
(注) 1. 砕石は動き均し後、十分に壓延すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地盤力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
φ500 × φ300
(単位:mm)

平面図

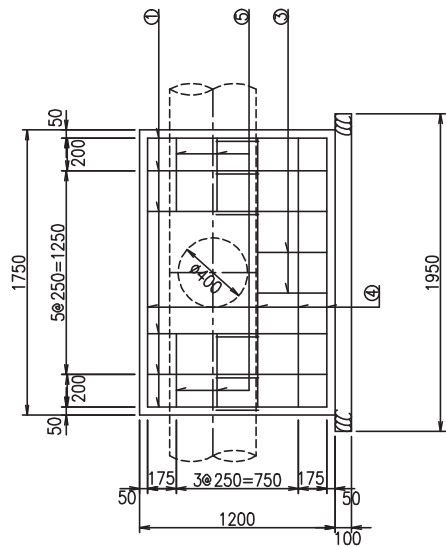


配筋加工図

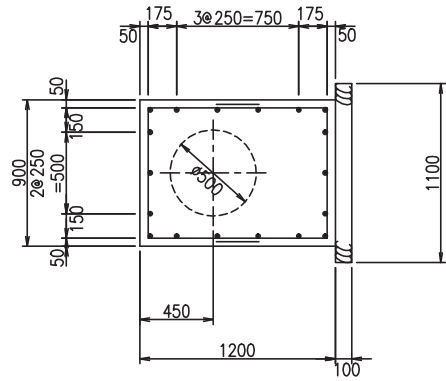


番号	径	l_1	l_2	l_3	小計	本数	計
①	D13	680	800		2,160	12	25,920
②	D13	680	800		1,480	2	2,960
③	D13	680	800	425	1,905	2	3,810
④	D13	1,650			1,650	16	26,400
⑤	D13	450			400	4	1,600
$\Sigma L = 60,690 \text{ mm}$					$\Sigma W =$	60 kg	
コンクリート体積 (m ³)						1.48	
砕石面積 (m ²)						2.15	
型枠面積 (m ²)						5.77	

側面図



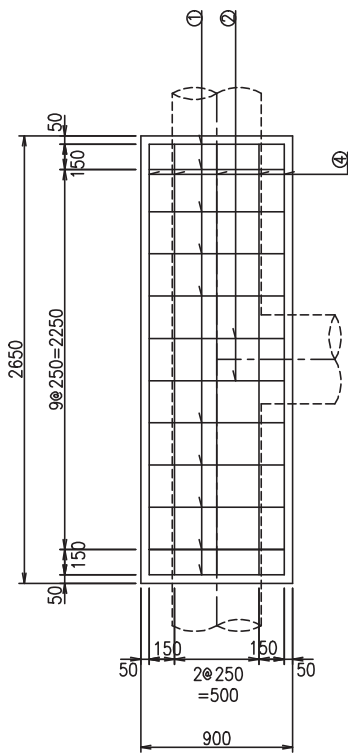
断面図



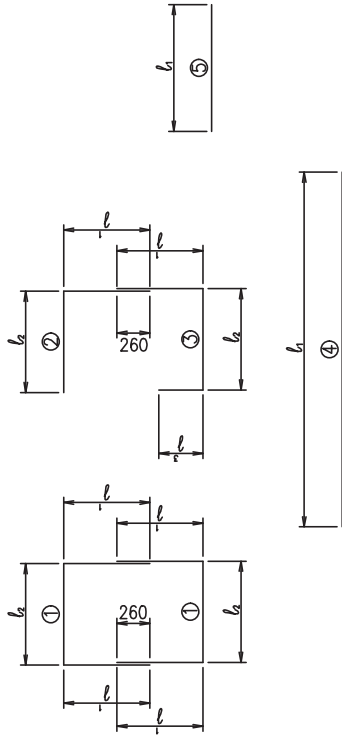
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に圧縮すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不固沈下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
φ500 × φ400
(単位:mm)

平面図

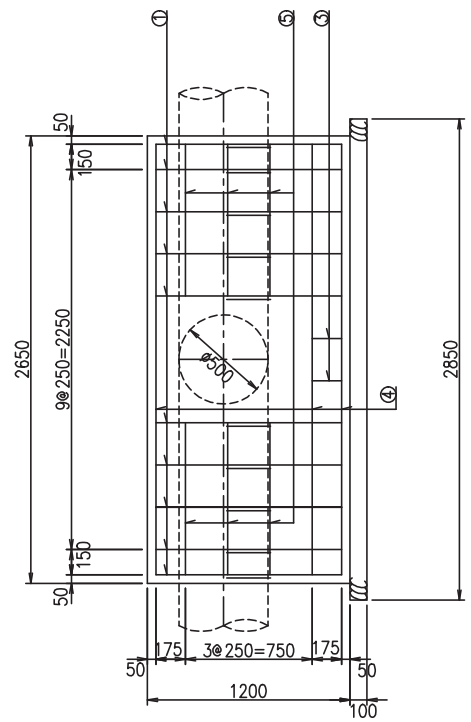


配筋加工図

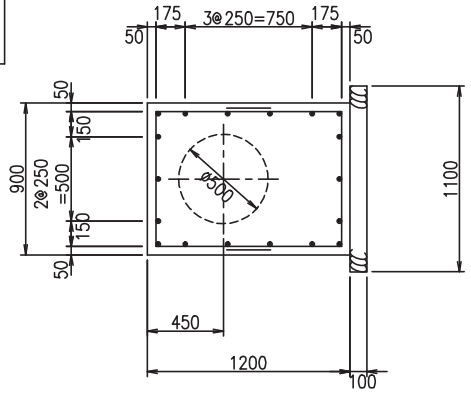


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	680	800		2,160	20	43,200
②	D13	680	800		1,480	2	2,960
③	D13	680	800	175	1,655	2	3,310
④	D13	2,550			2,550	15	36,250
⑤	D13	900			900	6	5,400
ΣL= 93,120mm					ΣW=	93 kg	
コンクリート体積 (m ³)					2.24		
砕石面積 (m ²)					3.14		
型枠面積 (m ²)					7.86		

側面図



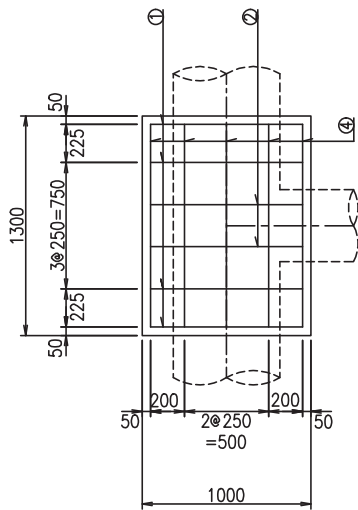
断面図



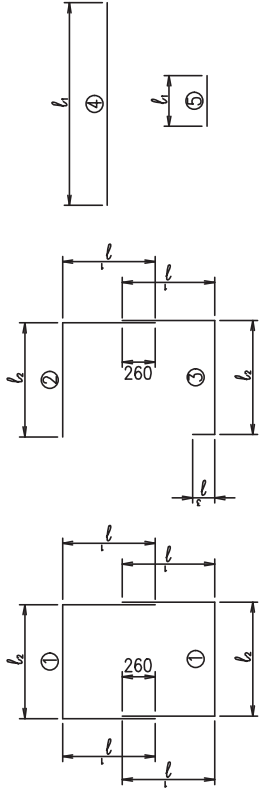
- (注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に転圧すること。
 2. 地盤が不均等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講ずること。

T字管保護コンクリート
 φ500 × φ500
 (単位mm)

平面図

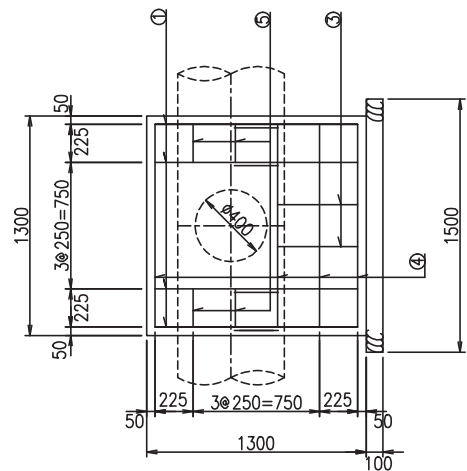


配筋加工図

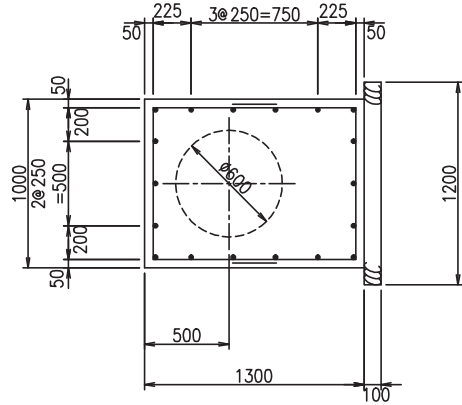


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	730	900		2,360	8	18,880
②	D13	730	900		1,630	2	3,260
③	D13	730	900	475	2,105	2	4,210
④	D13	1,200			1,200	16	19,200
⑤	D13	225			225	4	900
ΣL= 46,450 mm					ΣW=	46 kg	
コンクリート体積 (m ³)						1.26	
砕石面積 (m ²)						1.80	
型枠面積 (m ²)						5.21	

側面図



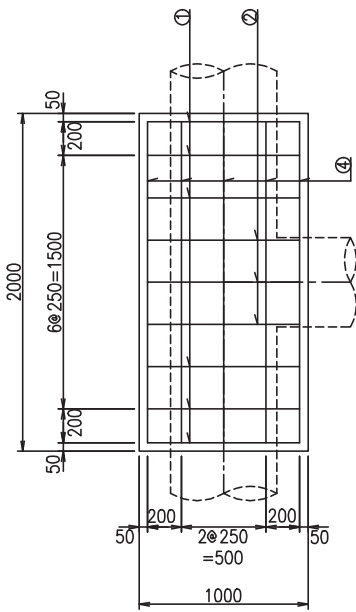
断面図



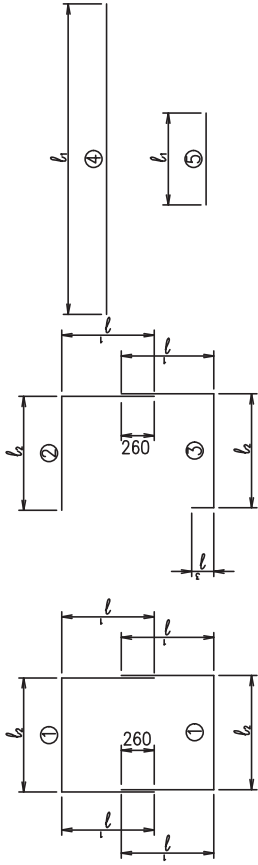
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に振圧すること。
 2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎等による不同沈下対策を講ずること。

T字管保護コンクリート
 φ 600 × φ 400
 (単位mm)

平面図

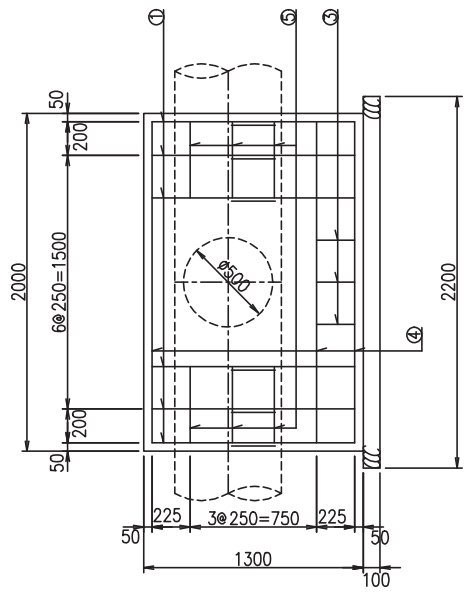


配筋加工図

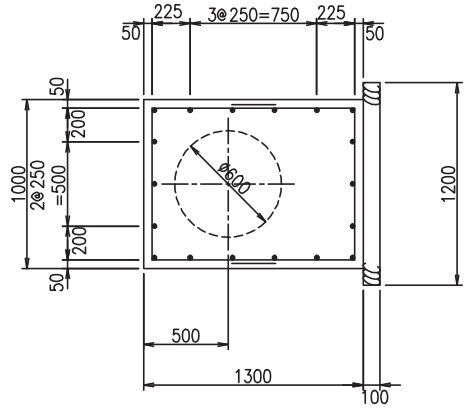


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	730	900		2,360	12	28,320
②	D13	730	900		1,630	3	4,890
③	D13	730	900	225	1,855	3	5,565
④	D13	1,900			1,900	15	28,500
⑤	D13	450			450	6	2,700
ΣL= 69,975 mm					ΣW=	70 kg	
コンクリート体積 (m ³)					1.94		
砕石面積 (m ²)					2.64		
型枠面積 (m ²)					6.96		

側面図



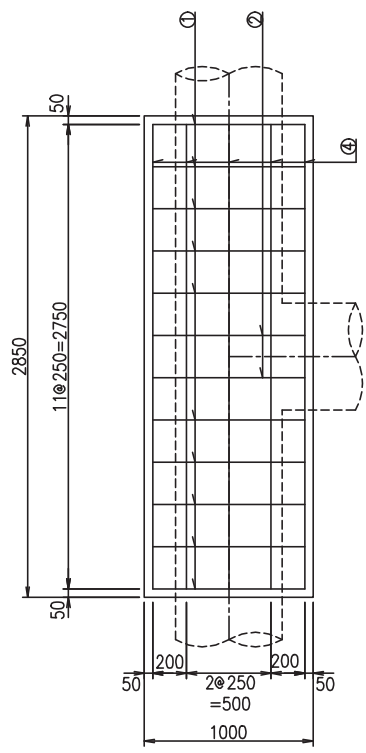
断面図



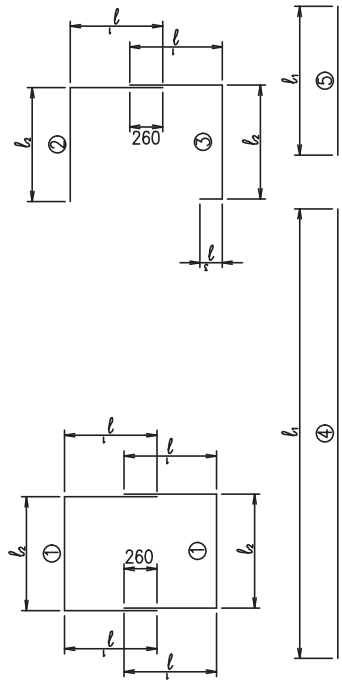
(注) 1. 砕石は敷き出し後、十分に転圧すること。
2. 地盤が不平等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
φ600 × φ500
(単位:mm)

平面図

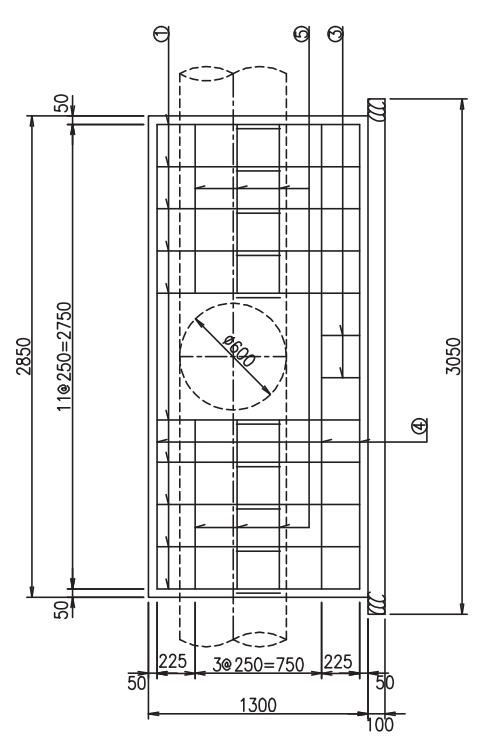


配筋加工図

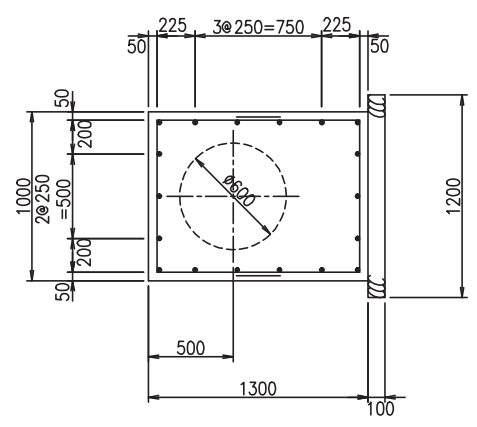


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	730	900		2,360	20	47,200
②	D13	730	900		1,630	2	3,260
③	D13	730	900	225	1,855	2	3,710
④	D13	2,750			2,750	15	41,250
⑤	D13	1000			1000	6	6,000
ΣL= 101,420 mm					ΣW=	101 kg	
コンクリート体積 (m ³)						2.76	
砕石体積 (m ³)						3.66	
型枠面積 (m ²)						9.08	

側面図



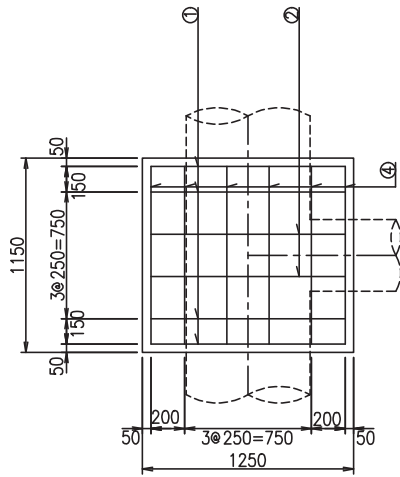
断面図



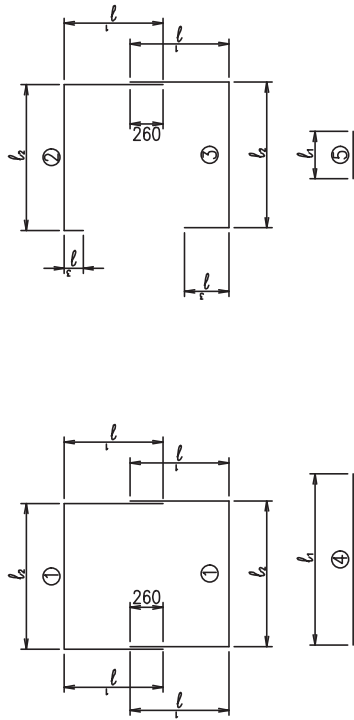
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に振圧すること。
 2. 地盤が不均等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
 φ600 × φ600
 (単位:mm)

平面図

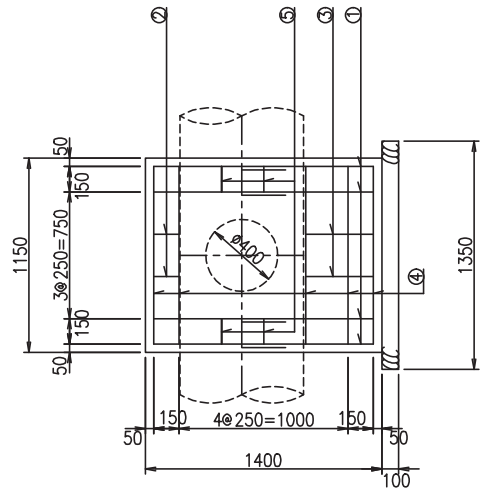


配筋加工図

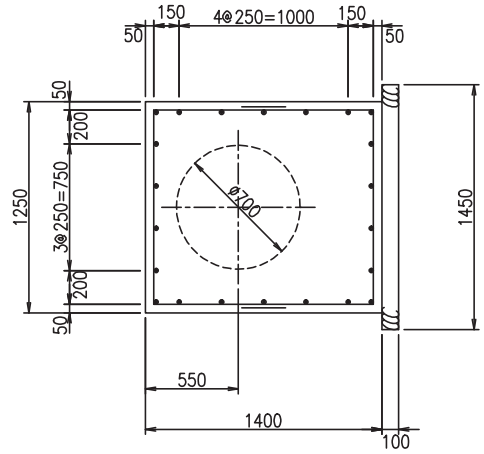


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	780	1,150		2,710	8	21,680
②	D13	780	1,150	150	2,080	2	4,160
③	D13	780	1,150	400	2,330	2	4,660
④	D13	1,050			1,050	20	21,000
⑤	D13	150			150	4	600
		ΣL= 52,100 mm			ΣW=	52 kg	
		コンクリート体積 (m ³)				1.49	
		砕石面積 (m ²)				1.96	
		型枠面積 (m ²)				5.73	

側面図



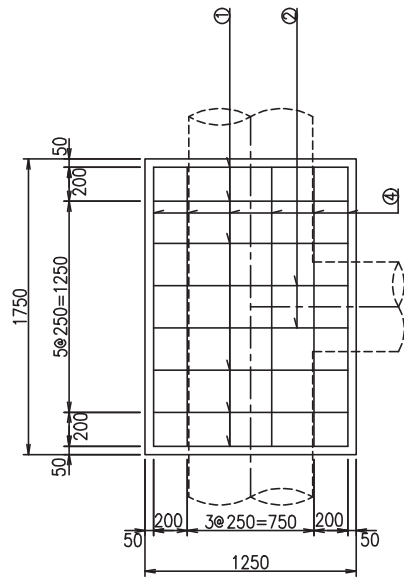
断面図



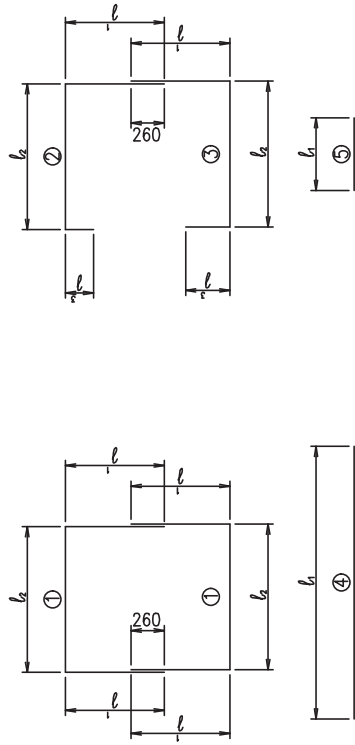
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に密圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講ずること。

T字管保護コンクリート
φ700 × φ400
(単位mm)

平面図

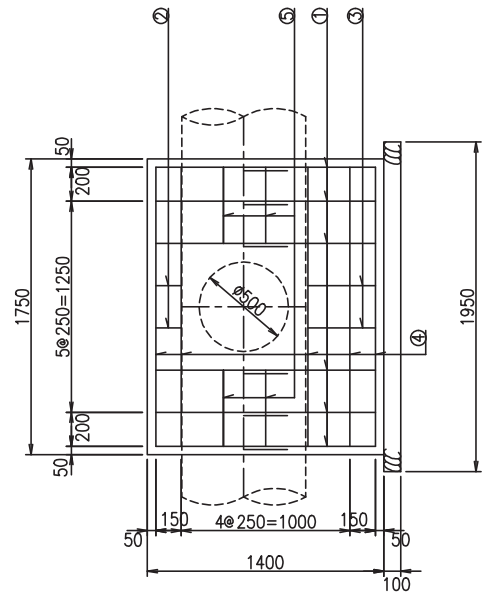


配筋加工図

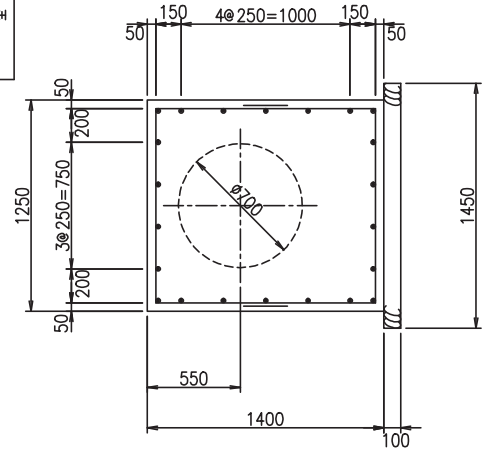


番号	径	l_1	l_2	l_3	小計	本数	計
①	D13	780	1,150		2,710	12	32,520
②	D13	780	1,150	150	2,080	2	4,160
③	D13	780	1,150	400	2,330	2	4,660
④	D13	1,650			1,650	20	33,000
⑤	D13	450			450	4	1,800
		$\Sigma L = 76,140 \text{ mm}$			$\Sigma W =$	76 kg	
		コンクリート体積 (m ³)				2.27	
		砕石面積 (m ²)				2.83	
		型枠面積 (m ²)				7.34	

側面図



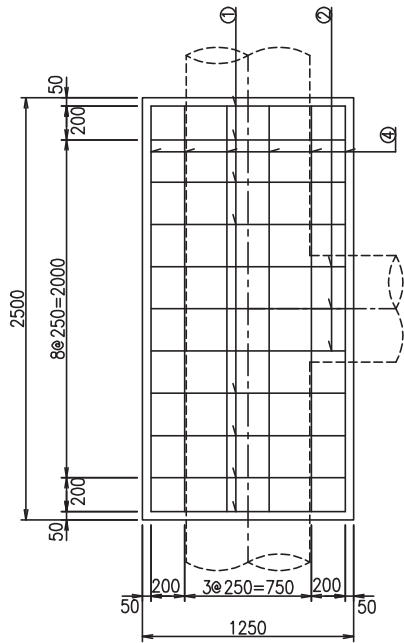
断面図



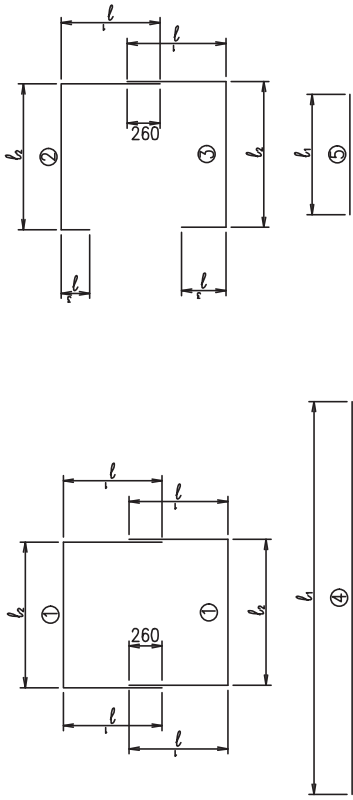
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に転圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
φ700 × φ500
(単位mm)

平面図

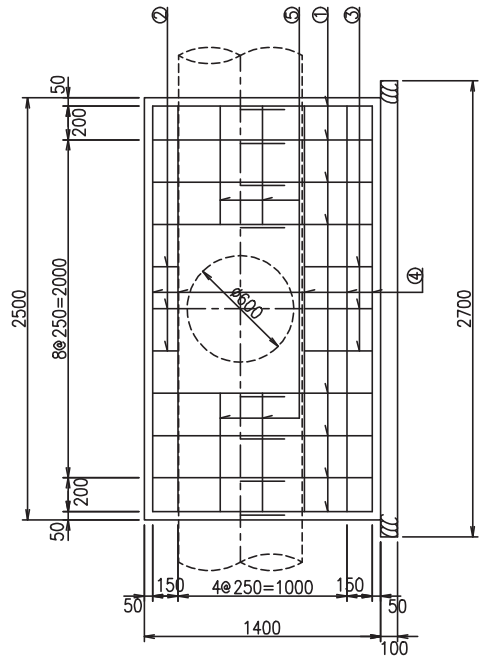


配筋加工図

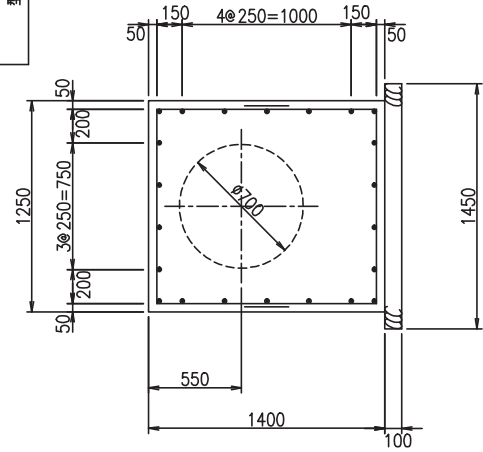


番号	径	l ₁	l ₂	小計	本数	計
①	D13	780	1,150	2,710	16	43,360
②	D13	780	1,150	2,080	3	6,240
③	D13	780	1,150	2,330	3	6,990
④	D13	2,400		2,400	20	48,000
⑤	D13	700		700	4	2,800
ΣL= 107,390 mm						ΣW= 107 kg
コンクリート体積 (m ³)						3.24
砕石面積 (m ²)						3.92
型枠面積 (m ²)						9.35

側面図



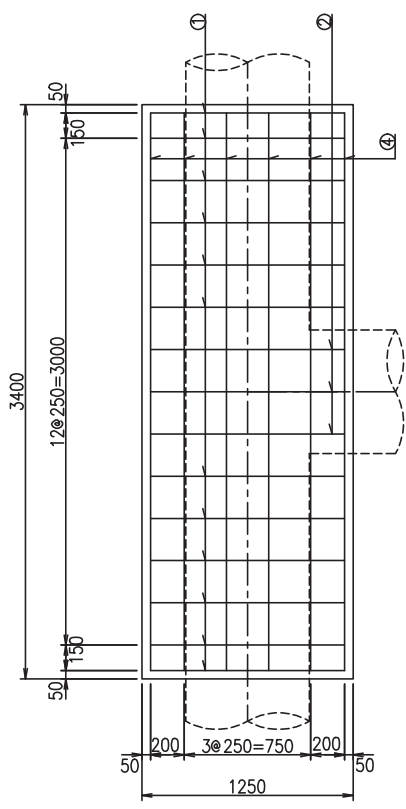
断面図



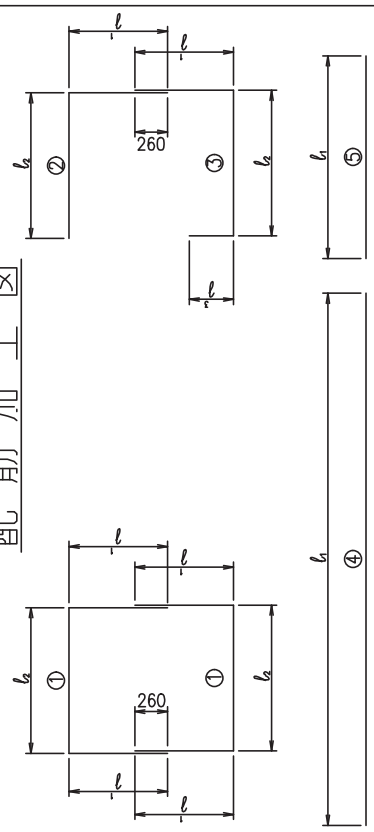
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に碾压すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
φ700 × φ600
(単位mm)

平面図

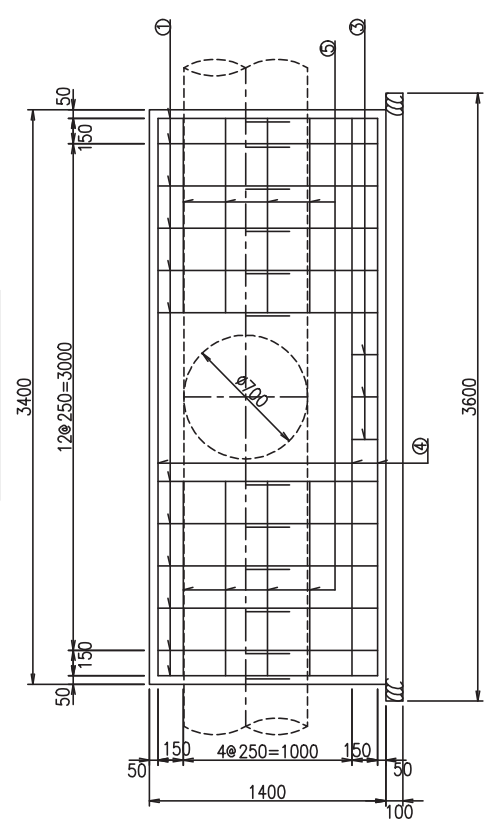


配筋加工図

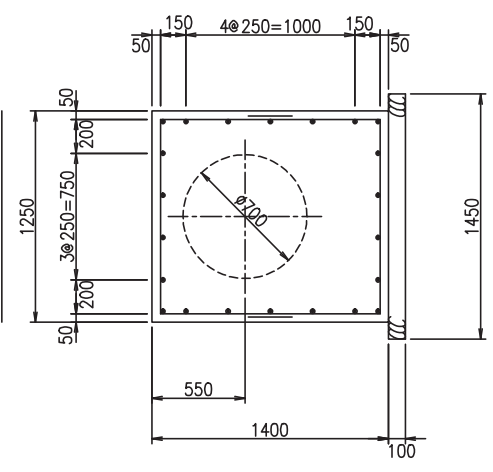


番号	径	l_1	l_2	l_3	小計	本数	計
①	D13	780	1,150		2,710	24	65,040
②	D13	780	1,150		1,930	3	5,790
③	D13	780	1,150	150	2,080	3	6,240
④	D13	3,300			3,300	18	59,400
⑤	D13	1,150			1,150	8	9,200
$\Sigma L = 145,670 \text{ mm}$					$\Sigma W =$	145 kg	
コンクリート体積 (m ³)					4.41		
砕石面積 (m ²)					5.22		
型枠面積 (m ²)					11.76		

側面図



断面図

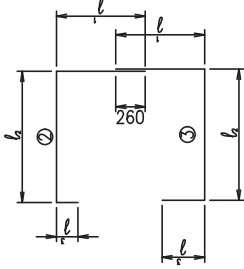
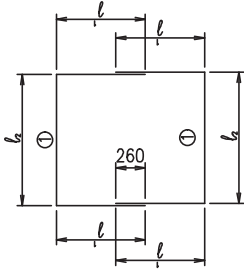
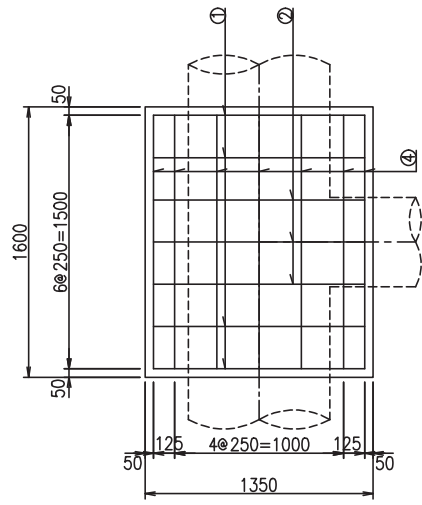


(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に振圧すること。
2. 地盤が不均等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同加下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
φ700 × φ700
(単位mm)

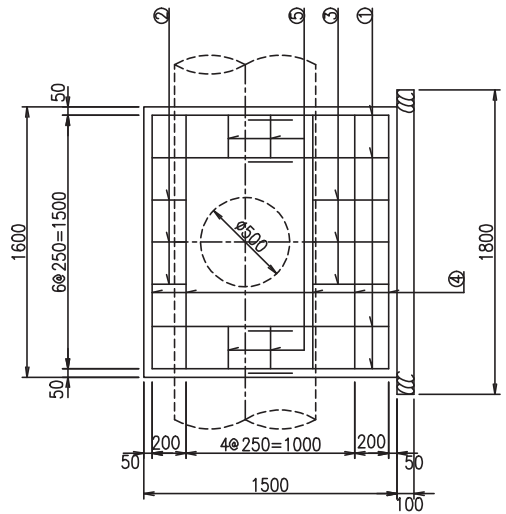
配筋加工図

平面図

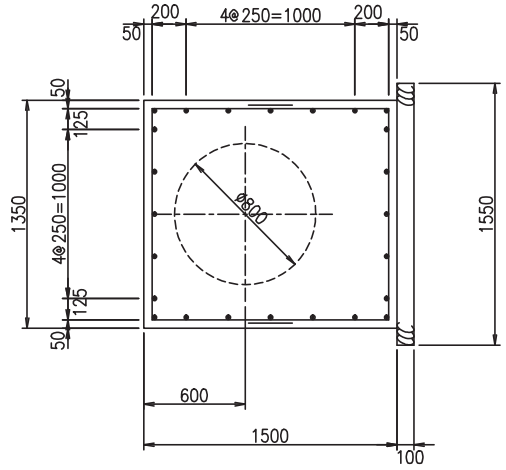


番号	径	l_1	l_2	l_3	小計	本数	計
①	D13	830	1,250		2,910	8	23,280
②	D13	830	1,250	200	2,280	3	6,840
③	D13	830	1,250	450	2,530	3	7,590
④	D13	1,500			1,500	22	33,000
⑤	D13	250			250	4	1,000
$\Sigma L = 71,710 \text{ mm}$				$\Sigma W =$	71 kg		
コンクリート体積 (m ³)					2.30		
砕石面積 (m ²)					2.79		
型枠面積 (m ²)					7.53		

側面図



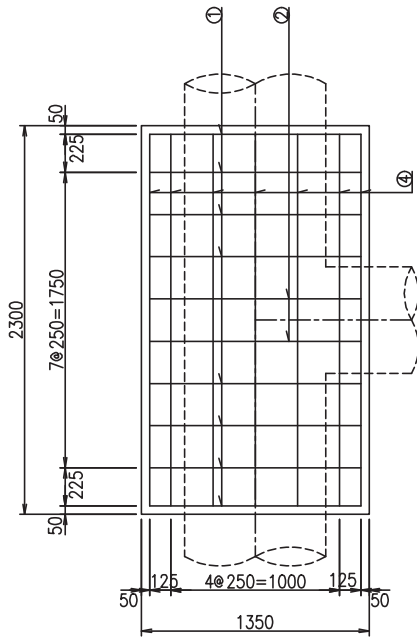
断面図



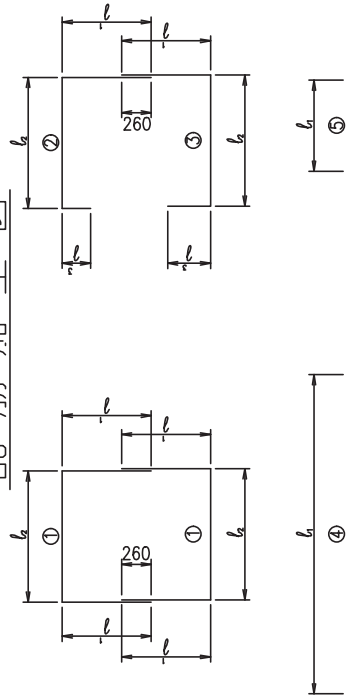
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に駆圧すること。
 2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不固沈下対策を講ずること。

T字管保護コンクリート
 $\phi 800 \times \phi 500$
 (単位mm)

平面図

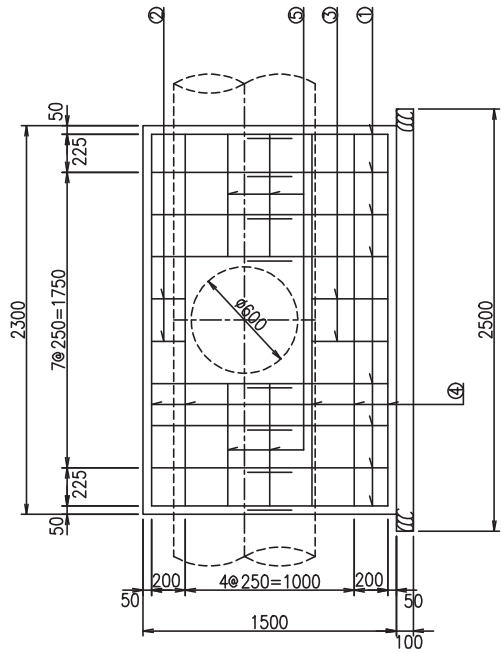


配筋加工図

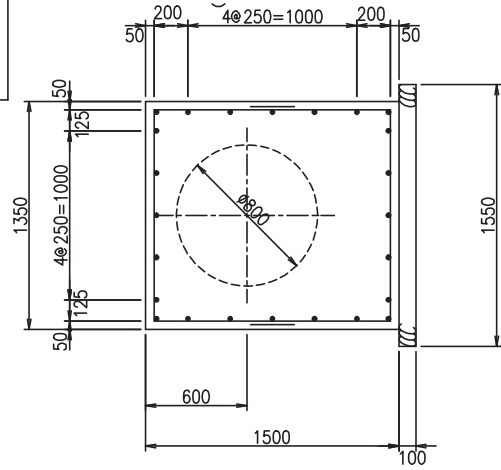


番号	径	l_1	l_2	l_3	小計	本数	計
①	D13	830	1,250		2,910	16	46,560
②	D13	830	1,250	200	2,280	2	4,560
③	D13	830	1,250	450	2,530	2	5,060
④	D13	2,200			2,200	22	48,400
⑤	D13	725			725	4	2,900
		$\Sigma L = 107,480 \text{ mm}$		$\Sigma W =$		107 kg	
		コンクリート体積 (m ³)				3.31	
		砕石面積 (m ²)				3.88	
		型枠面積 (m ²)				9.54	

側面図



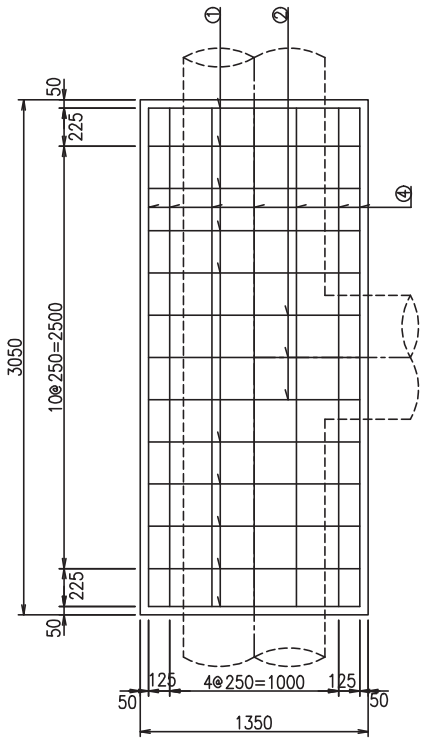
断面図



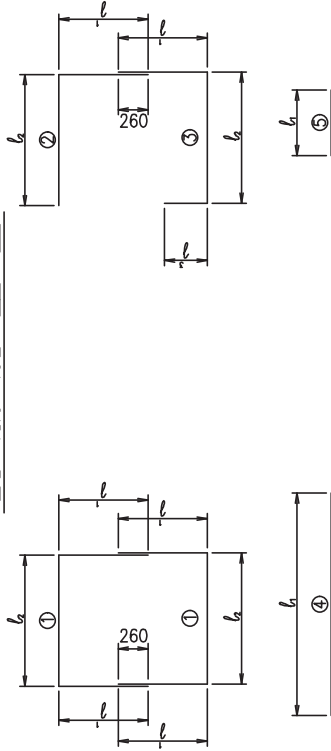
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に振圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎杭等による不同沈下対策を講ずること。

T字管保護コンクリート
φ800 × φ600
(単位:mm)

平面図

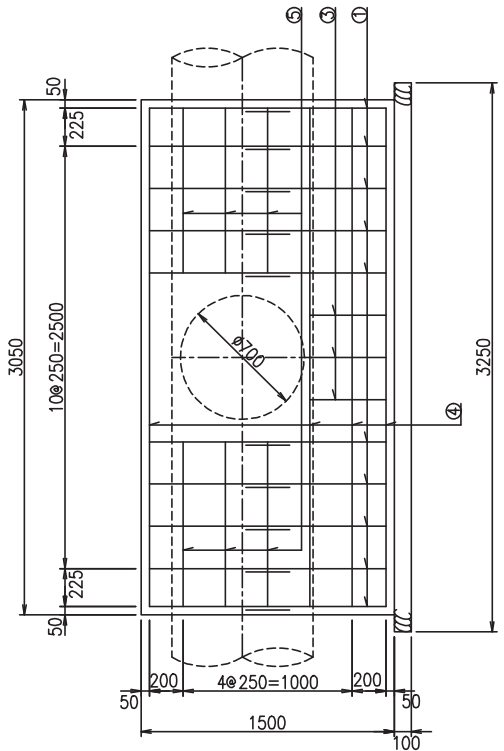


配筋加工図

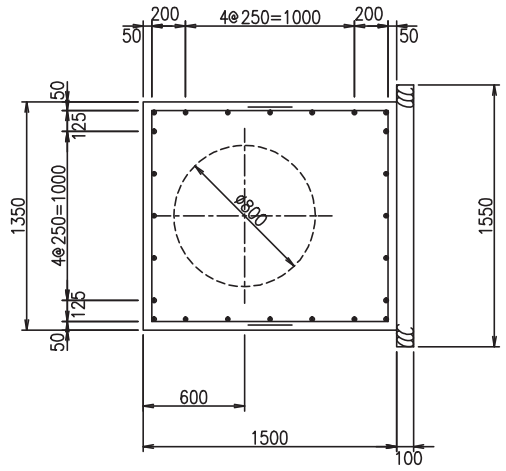


番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計	
①	D13	830	1,250		2,910	20	58,200	
②	D13	830	1,250		2,080	3	6,240	
③	D13	830	1,250	450	2,530	3	7,590	
④	D13	2,950			2,950	21	61,950	
⑤	D13	975			975	6	5,850	
ΣL= 139,830 mm							ΣW= 139 kg	
コンクリート体積 (m ³)							4.59	
砕石面積 (m ²)							5.04	
型枠面積 (m ²)							11.68	

側面図



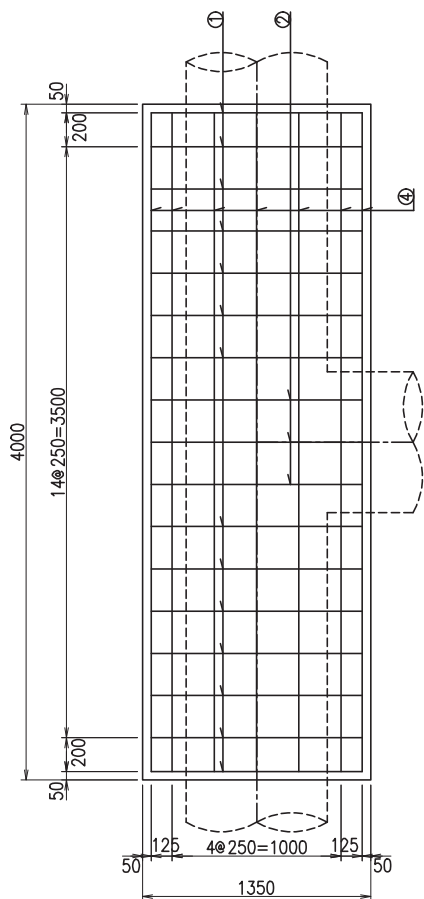
断面図



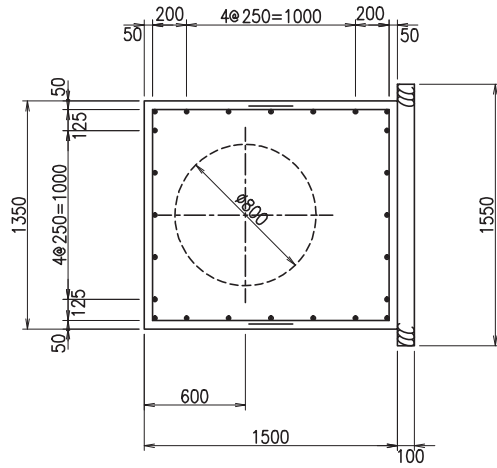
(注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に転圧すること。
2. 地盤が不良等で、十分な耐力が期待できないときは、基礎筋等による不同沈下対策を講じること。

T字管保護コンクリート
φ800 × φ700
(単位mm)

平面図

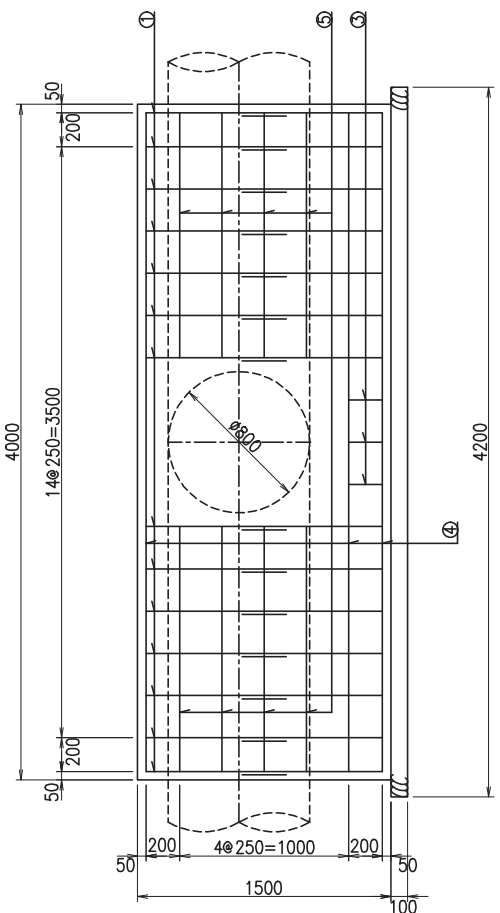


断面図



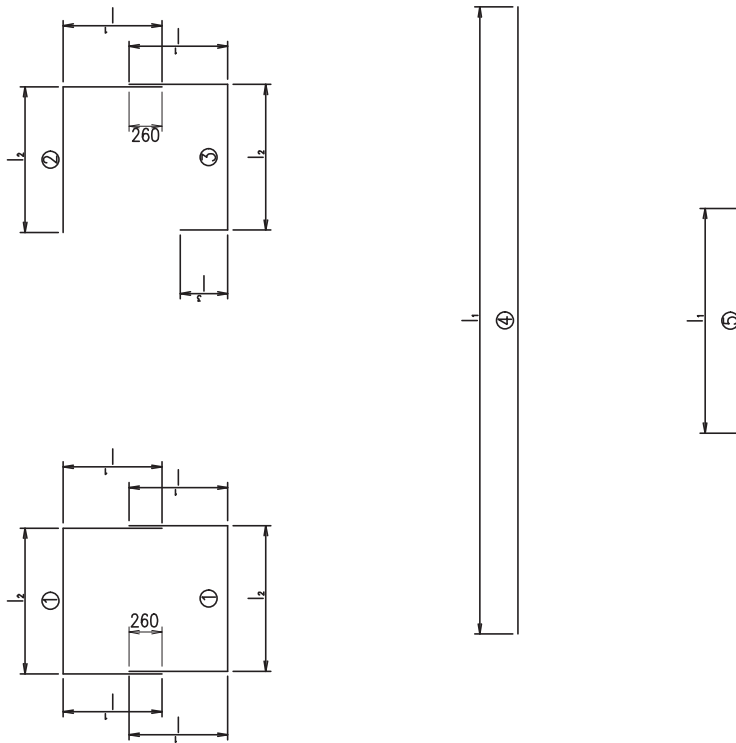
- (注) 1. 砕石は敷き均し後、十分に振圧すること。
 2. 地盤が不良等で、十分な地耐力が期待できないときは、基礎陥害による不同沈下対策を講じること。

側面図



T字管保護コンクリート
 $\phi 800 \times \phi 800$ (その1)
 (単位mm)

配筋加工図



番号	径	l ₁	l ₂	l ₃	小計	本数	計
①	D13	830	1,250		2,910	28	81,480
②	D13	830	1,250		2,080	3	6,240
③	D13	830	1,250	200	2,280	3	6,840
④	D13	3,900			3,900	20	78,000
⑤	D13	1,450			1,450	8	11,600
ΣL= 184,160 mm					ΣW=	183 kg	
コンクリート体積 (m ³)						5.76	
砕石体積 (m ³)						6.51	
型枠面積 (m ²)						14.40	

T字管保護コンクリート
 φ800 × φ800 (その2)
 (単位mm)